

2023年度第1四半期 決算説明資料



2023年8月10日

株式会社三井E&S



※ 2023年度第1四半期：前年同期に比べ増収増益

2023年度 第1四半期 決算概要

◆ 受注高	928 億円	(前年同期比 ↓)
◆ 売上高	616 億円	(前年同期比 ↑)
◆ 営業利益	17 億円	(前年同期比 ↑)

2023年度 見通し

◆ 受注高	3,200 億円	(前回発表比 →)
◆ 売上高	2,800 億円	(前回発表比 →)
◆ 営業利益	100 億円	(前回発表比 →)

トピック

- ◆ 港湾クレーンの水素燃料化に対する取り組み

※ 黒字基調に転換し、反転攻勢に向け順調なスタートを切る

(単位：億円)

	22年度1Q	23年度1Q	増減
受注高	1,066	928	△138
売上高	506	616	+110
営業利益	△67	17	+84
営業利益率	△13.3%	2.8%	-
経常利益	△42	6	+48
経常利益率	△8.4%	0.9%	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△19	15	+34

<期中平均為替レート>

USD	129.97円	138.54円
-----	---------	---------

2023年度第1四半期 セグメント別決算概要

※ 船用推進システム部門の受注高は前年同期に21年度末からのずれ込みによる増加があった事により、前年同期比では減少となるも堅調に推移

※ 物流システム部門では東南アジア地域の需要が堅調に推移した事により受注回復

※ 船用ディーゼル機関および港湾クレーンの事業環境が持ち直しつつあり損益が改善

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	22年度1Q	23年度1Q	増減	22年度1Q	23年度1Q	増減	22年度1Q	23年度1Q	増減
成長事業推進	82	124	+42	61	82	+20	4	4	△1
船用推進システム	657	460	△196	212	295	+83	△3	18	+21
物流システム	82	204	+122	85	74	△10	△10	△5	+5
周辺サービス	185	139	△46	95	148	+53	△4	5	+10
その他	60	1	△59	53	17	△37	△54	△5	+49
合計	1,066	928	△138	506	616	+110	△67	17	+84

※ 通期見通しは期初計画から変更なし

(単位：億円)

	期初計画
受注高	3,200
売上高	2,800
営業利益	100
経常利益	40
親会社株主に帰属する 当期純利益	30
フリーCF (*1)	△430
有利子負債	1,710

(*1) インドネシアの工事に伴う一時的な資金支出を見込む

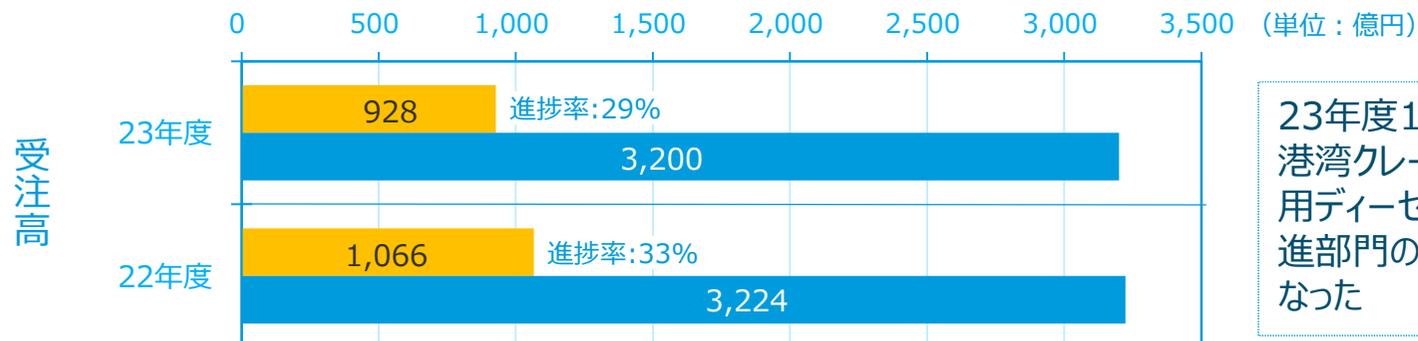
※ 前提為替レート US \$ = 135円

※ USドル/円の為替変動が営業利益に与える影響はほぼありません

(単位：億円)

セグメント別 期初計画	受注高	売上高	営業利益
成長事業推進	400	300	30
船用推進システム	1,600	1,300	40
物流システム	500	500	10
周辺サービス	700	600	20
その他	0	100	0
合計	3,200	2,800	100

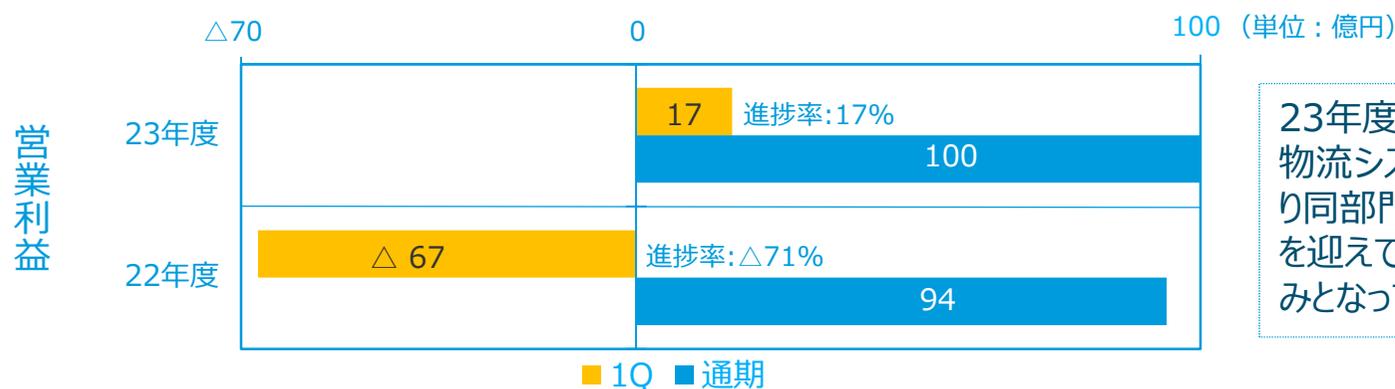
※ 受注高、売上高、営業利益ともに期初計画の範囲内にて進捗



23年度1Q:
 港湾クレーンの海外大型案件の獲得に加え、船用ディーゼル機関も堅調に推移し、成長事業推進部門の建機用エンジンなどが順調な滑り出しとなった



23年度1Q:
 物流システム部門がスロースタートとなっているが、期初の計画通りに推移しており、今後の工事進捗とともに売上高は増加して行く見込みとなっている



23年度1Q:
 物流システム部門における不採算工事の進捗により同部門は損失となったが、当該工事は既に終盤を迎えているため、今後損益は改善して行く見込みとなっている

※NEDOの助成を受け港湾クレーンのゼロ・エミッション化を実現

NEDO：水素社会構築技術開発事業（事業期間：2021年度～2025年度）

港湾荷役機器ラバータイヤ式門型クレーンの水素駆動化(水素燃料電池の採用) 開発事業

世界初となる水素燃料電池パワーパック(燃料電池,水素タンク,補機類等で構成)搭載のラバータイヤ式門型クレーンを開発し、クレーン動作、熱マネジメント、冷却システムの成立性、水素消費量等の検証を行い、全て実作業に適用可能な事を確認した



今後の予定

北米LA港における港湾水素モデルの事業化に向けた実証事業

港湾地区の荷役機器や車両のゼロエミッション化が推進されている米国ロサンゼルス港において、今回開発したクレーンの実証を行う

2022年度

ラバータイヤ式門型クレーンの水素駆動化開発と実証実験に成功

2023年度

水素駆動化ラバータイヤ式門型クレーンの制作・輸送

2024年度

米国ロサンゼルス港において実荷役環境下での稼働状態の安定性や水素充填方法等のデータを収集し、設計改善へフィードバック

2025年度

NEDO：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

※ 東京港の脱炭素化推進の一翼を担う

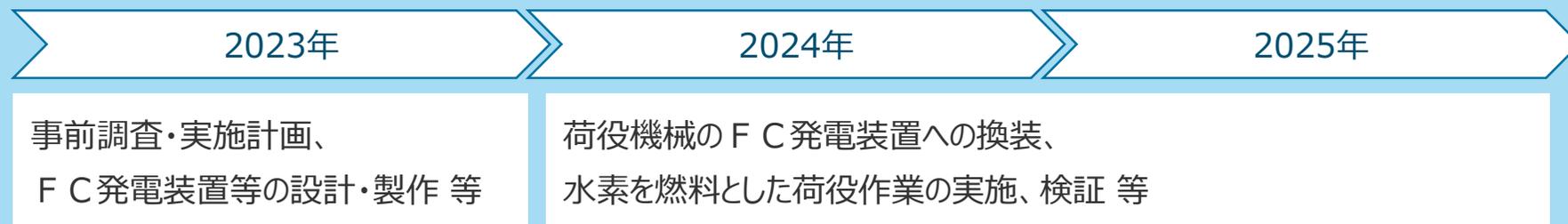
東京港における荷役機械のFC化プロジェクト

当社は東京都港湾局、日本郵船株式会社、株式会社ユニエックスNCT及び岩谷産業株式会社と、水素を燃料とした荷役作業を実施するための協定を締結

実施場所：大井ふ頭6/7号バース

当社所掌：タイヤ式門型クレーンに燃料電池を実装

従来の軽油を燃料としたディーゼルエンジン発電機から水素を燃料としたFC発電装置へ換装



FC : Fuel Cell (燃料電池)

当社は、これからもクリーンな荷役機器を提供するクレーンメーカーのパイオニアとして港湾の脱炭素化に取り組んでまいります

※ 段階利益全ての黒字化を達成

(単位：億円)

	22年度1Q	23年度1Q	増減	
売上高	506	616	+110	
売上総利益	3	87	+84	
販売費及び一般管理費	70	70	0	
営業利益	△67	17	+84	今期はインドネシアの工事の費用精算進捗により為替の影響が大幅に減少し増益
営業外収益	46	16	△30	
営業外費用	21	28	+7	
経常利益	△42	6	+48	
特別利益	24	19	△5	今期19億円は三井E&S DU株式取得に伴う負ののれん発生益
特別損失	3	7	+4	今期7億円はモデックの第三者割当増資に伴う持分変動損失
税金等調整前四半期純利益	△22	18	+39	
法人税等合計	△3	3	+6	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	0	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△19	15	+34	

参考) 2023年度第1四半期 連結貸借対照表の概要

※ インドネシアの工事に伴う資金支出により一時的に有利子負債が増加

(単位：億円)

	22年度	23年度1Q	増減	
資産合計	4,400	4,396	△3	
(現金及び預金)	458	400	△58	
(仕掛品)	468	538	+70	主に船用ディーゼル機関の受注が堅調に推移した事に伴う増加
(有形・無形固定資産)	1,313	1,323	+11	
(投資有価証券)	688	647	△41	
負債合計	3,293	3,289	△3	
(支払手形及び買掛金)	549	608	+59	主に三井E&S DUの新規連結に伴う増加
(契約負債)	253	364	+111	主に船用ディーゼル機関の受注に伴う増加
(受注工事損失引当金)	140	114	△27	
(有利子負債)	1,415	1,708	+292	主にインドネシアの工事に伴う資金支出に伴う増加
(その他)	545	131	△415	主にインドネシアの工事の費用精算進捗に伴う未払費用の減少
純資産合計	1,107	1,107	0	
(自己資本)	1,064	1,065	+1	
自己資本比率	24.2%	24.2%		
ネットD/Eレシオ	0.9倍	1.2倍		

※ 通期生産見通しに向け、順調に推移

船用ディーゼル機関

	22年度1Q実績		23年度1Q実績 (*1)		23年度予想 (*1)	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	112	233	50	127	—	—
売上高	31	60	35	67	—	—
受注残高	102	216	124	242	—	—
生産実績	33	72	41	78	160	325

(*1) 23年度は三井E&S DU社分を含む



MITSUI E&S

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。